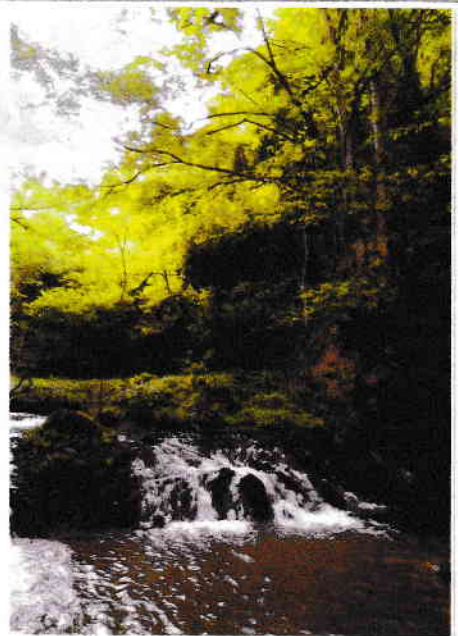


『紡ぐ』

2021.9.1 第27号

発行 教育相談室「あした塾」

変わる季節



(行く夏の風景・梶地区内)



季節は夏から秋へ。あんなに暑かったのに、いよいよ寒さを感じるようになってきました。

季節の変わり目、体調管理には気を付けましょう。また、新型コロナウイルスの感染拡大が止まる気配がありません。そして、マスクを打ったがり大丈夫という事ではありません。大変ですが、「コロナ対策を、いつも考えて」気を付けた生活をしていきましょう。

姥川

イノシシが守るために見つけた姥川を一ヶ所に集めました。移植にはいいのですが、残った方が少なくなりました。でも、やはり花を咲かせてくれています。「花が咲くとき、葉が落ちる。つ利歯がはいということ、姥川と名前」がついたこと。異論があるのでは...?



鹿の子川

白の花もありました。絶滅危惧種とか。毎年たくさん咲きます。

投稿

大木町 室水正武

二十一年持ちしナシヨナル
十年でパナソニックは
「ナシ」とも言わず

洗いのしめ月曜ロード
棚奥に守護神のこと
出番待ちね

季節

お盆。雨の中、ビシビシと降り、民家にトビが。逃げてもなく、千々子と集まる人たちは心配して食べ物を与えたり、カサをさしたり。顔に地面につけて動かさず待たれり。でも、いなくはなりました。

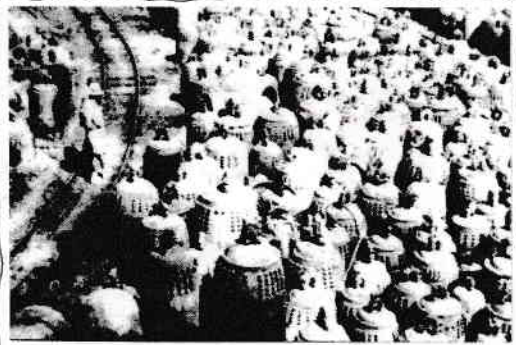


4日間ほどいたんですよ。

戦後76年です、

日本人の約9割が「戦争を知らない」

筆者は1945年10月生まいます。76年は筆者の年齢でもあります。広島や長崎に原爆が落とされる前に「生」を得ています。でも、戦争そのものは知りません。戦争のあとの生活は知ります。同級生に父親の顔を知らない。戦争で家族を亡くした人はいます。「敵」「味方」であり、権力者の一部は戦争を始め、実際に戦うのは国民です。そして、どちらの国民にも家族はいます。殺していいわけがありません。戦争に「いい戦争」「悪い戦争」があるわけがありません。戦争はしてはいけないのです。想像力を持ってこのことを伝え続けなければいけません。(T)



「文」第26号で「本教寺の梵鐘のことを載せました。上の写真は三重県四日市の石原産業製錬工場に集められた梵鐘です。

あらためて戦争について考えさせられる資料です。

「目を見る郷土史 四日市の歩み」より

高潮



(「とどろきの海遊館」の前。遺跡は海水。)

8月7日から9日まで、台風9号の影響で、大分県の海岸線は高潮と満潮が重なり、かなりの被害がありました。田んぼに海水が入り、このほどの被害は水の泡に。今後もあり得ることです。何らかの対策を考えておく必要があります。政府はいかに最要のことを考えて...です。(写真は山本祐孝さん提供)

伊藤繁男議員 「議会活動に」

8月初め、伊藤繁男議員が、これまでの4年間の一般質問を

とをまとめ、

議会活動に

よりを報告し

ました。大甲

正司議員、山

本祐孝議員に次いで3人目

になります。「住民に代わって

市政のことを色々とやりなさいと

選ばれたのが議員であるとし、議員の職責について述べています。「右に文庫に

使ってください」とも。

すばらしいことです。期待したい

と思います。



住居民館。埋立地であるため、海水は下から入込んできました。